

和泉式部

“あらざらむ この世のほかの 思ひ出に
今ひとたびの あふこともがな ”

平安時代女流歌人の第一人者。百人一首撰定の基礎となった、勅撰八代和歌集には合せて、一三四首。特に「後拾遺集」には、六七首も撰ばれています。百人一首撰者の藤原定家の八代和歌集から撰んだ「八代抄」にも三七首、女流歌人では勿論トップ。その歌風は、恋の想いをそのまま表現、情熱的官能的はもちろん、切実な女心を訴えているものとして、つとに有名。

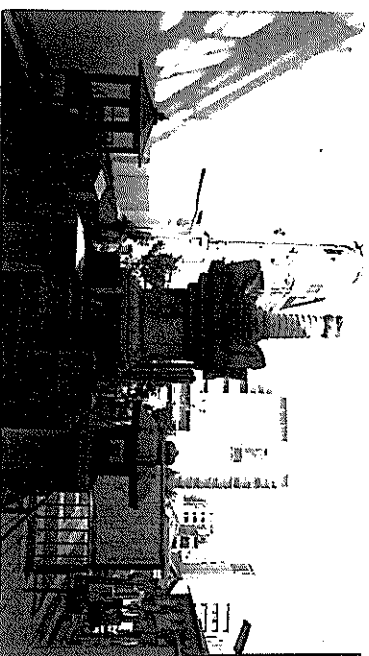
“黒髪の みだれも知らず うち臥せば
まつかきやりし 人を恋しき”

などその最たるもの。私生活も狂わされたような恋の遍歴を重ね、自著「和泉式部日記」にはその様子が「よくも まあ」と感じるほど赤裸々に綴られています。

京都鞍馬の貴船神社に参詣した折

“ものおもへば 沢の蛭も わが身より
あくがれいづる たまかとぞ見る ”

と詠い、恋に狂った自分を見捨てて去ってしまった夫藤原保昌への想いが、ふつふつと沸き、「既に時、遅し」自分ただだ虚ろうばかりと嘆いています。



宝鏡院塔・和泉式部の墓所 (誠心院)

後年は娘小式部内侍にも先立たれ、ただひたすら成仏を願って仏門に入り、身の穢れを払い往生したと伝えられています。そのゆかりの寺が、京都新京極の「誠心院」で和泉式部が初代の住職を勤めたとされています。紫式部にいわせる「和泉の和歌は、たいそう興ぶかいものがあり、口をついて自然にすらすらと歌が詠み出されると、思われがちな人ですが、こちらが引け目を感じるほどの歌人ではない」とその日記にしています。

(日本かるた院本院 参与 河田 久章)

ポイントレッスンの答え:

- ① ア ② イ ③ エ ④ ウ ⑤ 大内裏図考証 ⑥ 高御座 ⑦ お千度廻り ⑧ (皇女) 和宮 ⑨ 小豆御飯

「都草」京都学ポイントレッスン (2)

- ① 菅原道真が雷神となって雷を落としたとされる内裏の建物は？
ア:清涼殿 イ:紫宸殿 ウ:御常御殿 エ:宣陽殿
- ② 8月18日の政変で薩摩藩・会津藩が、長州藩と公卿7人を御所から追放。その時参内を阻止された門は？
ア:始御門 イ:堺町御門 ウ:中立売御門 エ:乾御門
- ③ 後水尾天皇の譲位後の住まい、仙洞御所の作庭の任を賜ったのは？
ア:石川丈山 イ:金地院崇伝 ウ:小川治兵衛 エ:小堀遠州
- ④ 御常御殿上段の間に描かれた「桐竹鳳凰図」の作者は？
ア:住吉弘貴 イ:駒井貴礼 ウ:狩野永岳 エ:円山応挙
- ⑤ 天明の大火で焼けた御所を再造営する為に、参考として用いられた書物は？
- ⑥ 紫宸殿の中央に置かれ、儀式の時に天皇の御座として用いられるものは？
- ⑦ 東京遷都をやめさせようとして、町衆千人余りが石薬師御門に連日押し寄せた。これを何というか？
- ⑧ 生母御行院の生家・橋本家で育ち、14代將軍の正室となったのは？
- ⑨ 京言葉に影響を与えたとされる御所ことばで「アカノオハン」とは？

「京都御苑のご案内について」 理事長 坂本孝志

今般、環境省京都御苑管理事務所主催、「京都御苑 130年、源氏物語千年記念京都御苑歴史散策の集い」の開催にあたり、NPO 法人京都観光文化を考える会・都草が協力させていただきますことを、大変光栄に思っております。

御苑の史跡などをご案内させていただくにあたりましては、諸先生方から貴重な資料のご提供と多くの示唆に富んだご指導をいただきました。

私たちは“歴史を語り継ぐ者”として、事実を正確に述べるとともに、ご来苑の皆様楽しんでいただけるご案内を心掛けたいと思います。

編集後記

「吾唯足知」はお釈迦様の言葉として知られ、龍安寺にはこれが彫られた水戸光圀寄進といわれる手水鉢が置かれています。今年はこの言葉を思い起こすことが何度かありました。今後も自戒の言葉としたいものです。

少し気が早いですが、来年も「都草だより」ご愛読よろしくお願ひ申し上げます。 < 亀田 >

第3号 NPO法人 京都観光文化を考える会
都草 MIYAKOGUSA
都草だより
平成20年12月1日発行
発行人:坂本孝志
編集人:亀田正昭
発行所:京都市上京区
下立売通新町西入
京都府庁日本館2階
電話:075-451-8146

京都御所再発見

◎ 御溝水 (みかわみず)

京都御所と大宮・仙洞御所の廻りを流れる小川のことをい。御苑の廻りもそう呼ぶ。

室町中期頃から御苑内には御溝水という流れが、禁裏御用水として鴨川のはるか上流から引き込まれ、相国寺の中を通り今出川を過ぎて、近衛邸の池に注がれていた。そこから分かれて一つは辨平門の東で御所に入り、宮殿の下を還流し池を潤し南へ出る。もう一つは築地塀の石の堀割りの御溝水として御所を取り巻いてさらに二分する。大宮・仙洞御所が築かれた後も導入されていた。

上流雲ヶ畑方面は禁裏御用地となり、資材の搬出や御用船等献上する地となり、下流へ不浄な物を流さぬ為「持越峠」ができた。

明治45年(1912) 田辺朝郎が琵琶湖疏水から導水する御所水道を設計し、蹴上インクラインから動物園を経て鴨川を渡り御苑の清和門に入り大宮御所西北角で御溝水と結ばれた。

平成3年～5年からは御苑内の地下水を汲み上げ循環利用している。



御溝水

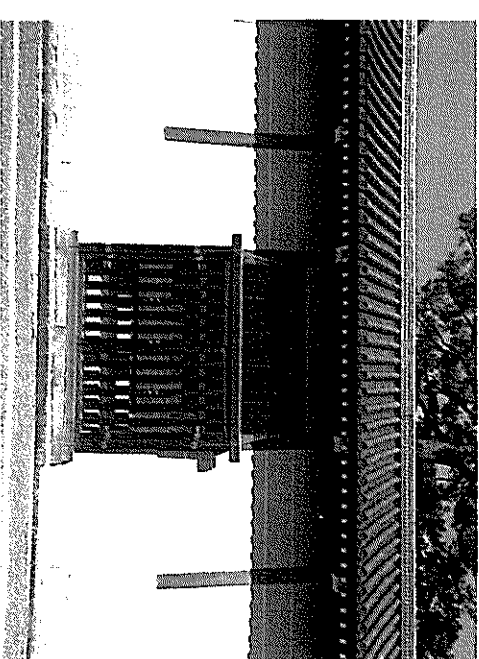
◎ 宮内庁御用達 (ごようたし)

禁裏御用商人が生まれたのは、鎌倉時代の供御人にかまるとい。

このテーマで語る時ぜひ取り上げねばならない話がある。建礼門の東に一つの穴門がある。何の表れもないがここを「道喜門」という。建礼門より東、上座に開かれていることから、いかに敬意を払っていたかを物語っている。

室町後期から安土桃山期にかけての禁裏には疲弊し切っ

ていて大変困窮していた。 そんな日々、毎日二食「朝餉」(あさがれい)「お朝のもの」として、丸い六個の餅を二列に並べ粽等と共に献上し出入りを許されたことがあり、天正5年(1577)信長による御所造営時、道喜は私財を投じて築地塀を修復した。



道喜門

時代は経過し江戸時代から明治期にかけて納入業者も多くなり、名譽と信用が看板になるようになり、宮内庁では取締りの一環として明治24年(1891)に「宮内庁御用達制度」を発足させている。

その要件として ○2年以上にわたり同じ営業に従事している事 ○博覧会・共進会などで優秀と認められた事 など細にわたった。願書には申請内容が偽りでないことを明白にするため、公的機関の証明書を添付するという厳しい条件を付し、不良品を納めたりすると資格を剥奪された。

後に期限が付けられ5年毎に再認可を受けねばならなくなり、昭和26年(1951)頃から新たな許可を与えず、同29年制度は廃止されたが「御用」の伝統と意識は何となく息づいている様に思われる。

京都に関連のある御用達業者(廃業者を含む。順不同)を以下に示す。(皇室の百科事典 一新人物往来社刊一から抜粋)

- 一保堂 ○川端道喜 ○塩瀬総本家 ○俵屋吉富 ○虎屋 ○村上開新堂 ○松前屋 ○原了郭 ○麩嘉 ○龍村美術織物 ○川島織物 ○北出工業 ○喜多川平朗 ○宮脇賣扇庵 ○みすや針 ○丸平大木人形店 ○市原平兵衛商店 ○たる源 ○村田眼鏡舗 ○招慶堂佐竹藤三郎 ○十三や ○木藤 ○鳩居堂 ○千總

京都御苑ガイドマップ



◆猿ヶ辻

京都御所の東北角は鬼門にあたるため、築地塀の角を欠き、守りに日吉山王社の神の使いとされる猿を祀っている。

幕末の文久3年(1863)5月、この付近で尊皇攘夷派の急先鋒、公家の姉小路公知が深夜に及ぶ朝議を終えて帰宅途中に刺客に殺されるという事件が起きた。刀や手裏剣など現場の遺留品から、薩摩の田中新兵衛が疑われたが、彼は犯行を否認し取調べ中に自刃した。薩摩藩に対する長州藩など他藩の策略とも伝えられ、真相は不明である。

◆橋本家跡

文久元年(1861)、公武合体の象徴として徳川家第14代将軍家茂に降嫁した孝明天皇の妹、和宮親子内親王の生誕地であり、母の典侍橋本経子の実家、権大納言橋本實久の屋敷跡である。和宮は有栖川熾仁親王との婚約を破棄し家茂に降嫁が決まるまでこの地で過ごされた。又、家茂亡き後は徳川家存続の為、天璋院と共に尽力されたが、錦御旗の下東征大総督として江戸城に向かったのは皮肉にもかの熾仁親王であった。

◆堺町御門

葵祭や時代祭の京都御苑出発点でお馴染みの堺町御門は、幕末の文久3年(1863)勃発した大事件の舞台となった。過激な討幕派の長州藩と公武合体派の薩摩・会津藩が対峙し、その結果長州藩が敗れた。この門が有名な三条実美等の「七卿落ち(8.18政変)」を演出した場所である。今では多くの市民や観光客が往来する威風堂々とした佇まいを誇るこの門を訪れ、往時に想いを馳せてみるのも一興である。

◆橋本家跡

◆凝華洞跡

江戸時代初期に、退位された第11代後西天皇の仙洞御所跡と言われている。幕末に京都守護職に任せられた会津藩主松平容保が、元治元年(1864)の禁門の変の際この地に仮本陣を置いて総指揮をとり、会津軍は苦戦を強いられたが、ここに据えられた15ポインム砲で長州軍を砲撃、敗走させた。傍らに亭々と聳える大銀杏の堂々たる姿に、幕末の混乱期に生きた若き武將の勇姿が重なるように見えるようである。

丸太町通

◆猿ヶ辻

今出川通

◆清水谷家の棕

幕末の戦いを記憶にとどめる棕の木、御苑の西側の苑路に立ちただかっているこのムクノキの誕生の物語は、神秘的である。

清水谷家はかつて吉田村(現左京区)に住した。その地からこの地につられる時に、吉田神社の屋根に芽生えたムクノキをこの地に神木として植えたものである。ムクノキはニシ科の落葉高木。葉は本地やべっこのの研磨材に使われ、材は弾力性に富むことから斧の柄や天秤棒などに使われる。秋に熟す実は小さくて黒く、ムクドリが好んで食べるので木の名前の由来になったとも言われている。

◆清水谷家の棕

都草抄

平安時代の天皇のお住まい(内裏)は現在の御所の約2km西の大内裏の中にあつた。その内裏が落雷や失火で焼失すると貴族の邸宅などに移され内裏と呼ばれた。この内裏のひとつの土御門東洞院殿が今の京都御所である。南北朝時代の元弘元年(1331)北朝の光厳天皇がここで即位されて以降明治2年(1869)まで御所とされた。現在の京都御所は平安京の内裏そのままではないが主要部分である紫宸殿、清凉殿などは如実に再現されている。南北約450m東西約250m面積約11万㎡、築地塀と御溝水を含めらした広大なたたずまいは、内部の調度品とともに王朝時代のみやびな生活をしのばせている。

◆堺町御門



烏丸通